



BitCapitalVendor
ブロックチェーン
デジタル資産管理エンジン白書



V1.1

BitCV.ONE

2018.1.26

要 約

ブロック・チェーンのデジタル・資産の配置はすでに初期の極み者から、今日の公共投資家への発展に向けて、非常に発展してきた。しかし、我々は、ブロック・チェーンのデジタル資産への投資配置や個々のサービスの分野において、多くの問題点と不足していることを見て、ブロックの鎖の思想とは反対している。ブロックチェーンが追求しているのは、仲介や透明化、そしてデジタル資産の早期投資の過程の中で、私達は多くの人に依存して、人を頼りにして、情報のソースに依存して、不透明な行為に直面して、多くのリスクを含んでいて、后期の資産の配置の上で、更に一面の空白がある。未来が 10 兆ドルに達する可能性があるデジタル資産市場は、データ資産管理の莫大な価値、取引、支払い以外の資産管理、標準化サービスプロセスの需要も爆発し、より良い産業生態系を促進することができる。

ブロックチェーンの技術は、各種の各種の各種に、更に浸透して、ブロックチェーンの技術、人材、サービスはすべて早期に、大量のプロジェクトはプロジェクトから后期には、必要な各種のサービスと技術、ツールを必要として、アプリケーションブロックチェーンを満足し、ブロックチェーン時代の需要に更新する。

bitcv チームがファクトライズド・パワー・構造技術を利用し、インターネット技術、投資、金融、メディア分野の蓄積と優位は、既存の天候鎖技術に基づいて、底の改良と並行開発、効率多鎖両替に対する技術などの技術を開発し、資産管理鎖実現の底、それからふ化上位応用プラットフォームを開発し、事業の実現投融資と資産管理の過程で、技術道具とサービスに必要なプロジェクト

サービス事業者、かつサービス、投資資産管理体系化建設とともに多角化サービスのデータ、目指す塗り鎖デジタル資産管理の初サービスを作るエンジンとプラットフォームである。

BCV Token , BCV トークンは資産サービスのエンジンに基づいて、Bit CV の経済システムに機能する。デジタル資本パイプとサービス過程に使われる様々なサービス料金とプラットフォームの使用料を支払うために、仲介した点でサービス料金を注文する。

目 録

要 約.....	2
第一章、プロジェクトの背景	7
1.1、ブロックチェーンデジタル資産配分の爆発的な発展	7
第二章、デジタル資産管理のマクロの現状	9
2.1、投融資過程管理.....	10
2.2、総合デジタル資産管理.....	10
2.3、まとめ.....	11
第三章、デジタル資産管理の方策	13
3.1、プロジェクト投資・融資 SaaS システム—投融資 SaaS.....	13
3.2、デジタル資産の深堀りと調査研究—財金通	16
3.3、デジタル資産管理の評価・測定プラットフォーム——チェン評価・測定	17
3.3.1、プロジェクトに対する評価モデル	17
3.3.2、投資家に対する評価モデル	18
3.4、デジタル資産 OMO(Online-Mobile-Offline)サービス——ブロックチェーンサ ービス.....	19
3.5、BitCV デジタル資産管理チェン	21
第四章、プロジェクト技術の構造と製品の実現.....	25
4.1、BitCV デジタル資産管理チェーンの設計.....	25

4.2、信頼と展開できるマイクロサービスの構造設計	31
4.3、簡潔で使いやすいプロジェクトと投資プラットフォーム	33
4.3.1、基本情報を記入し、クリックでプロジェクトのホームページが生成	33
4.3.2、プロジェクトサービスで投資者に明白な情報を提供する	33
4.3.3、プロジェクトを受ける方は、プロジェクトの段階とプロセスが分かる	33
4.3.4、プロジェクトデータの企画を通して、融資方を助ける	34
4.4、未来の製品への企画	34
第五章、BitCV 財団のガバナンス構造	36
5.1、BitCV 財団の設定	36
5.2、BitCV 財団のガバナンス構造	36
5.3、BitCV BitCV 財団の貿易安全と監査	37
5.3.1、BitCV 取引の安全性	37
5.3.2、監査	37
第六章、チームと投資家についての紹介	38
6.1、核心チーム	38
6.2、プロジェクトの顧問	40
6.3、組織	43
第七章、デジタルトークンの発行と使用	44
7.1、BitCV デジタルトークン BCV についての説明	44

7.2、BitCV デジタルトークン分配方針	44
7.3、BitCV トークン発行企画.....	45
7.4、BitCV トークンの利益モデル、支払い方法と再購入企画.....	46
第八章、プロジェクトのマイルストーン及びロードマップ	48
第九章、法務関係とリスク開示書	49
9.1、BitCV デジタル資産の法体系.....	49
9.2、リスク開示	49
9.3、免責事項に関する声明.....	52

第一章、プロジェクトの背景

1.1、ブロックチェーンデジタル資産配分の爆発的な発展

2009 年ビットコインが世に出たから、数年間の発展した後、特に近 3 ヶ月以来、ブロックチェーンデジタル資産配分が徐々に広く認められてきて、この業種は迅速に発展してもらった。デジタル資産の種類に見れば、今まで全世界のデジタル資産の数目が千を超え、アルトコイン（例えばライトコイン）と、価値に頼る革新的ブロックチェーン（例えばイーサリアム）の 2 種類がある。時価総額を見れば、この市場の成長は勢い良い。2013 年 9 月デジタル資産の時価総額が 15 億ドルで、2016 年 9 月は 120 億ドルに達し、今までは 5000 億ドルを超えた。その中ビットコイン時価総額は 3000 億ドルを占め、他のデジタル資産は 2000 億ドルを占める。言い換えれば、過去の 4 年間で、デジタル資産の時価総額は 350 倍以上に成長し、最近の 1 年間も 40 倍以上に増長した。

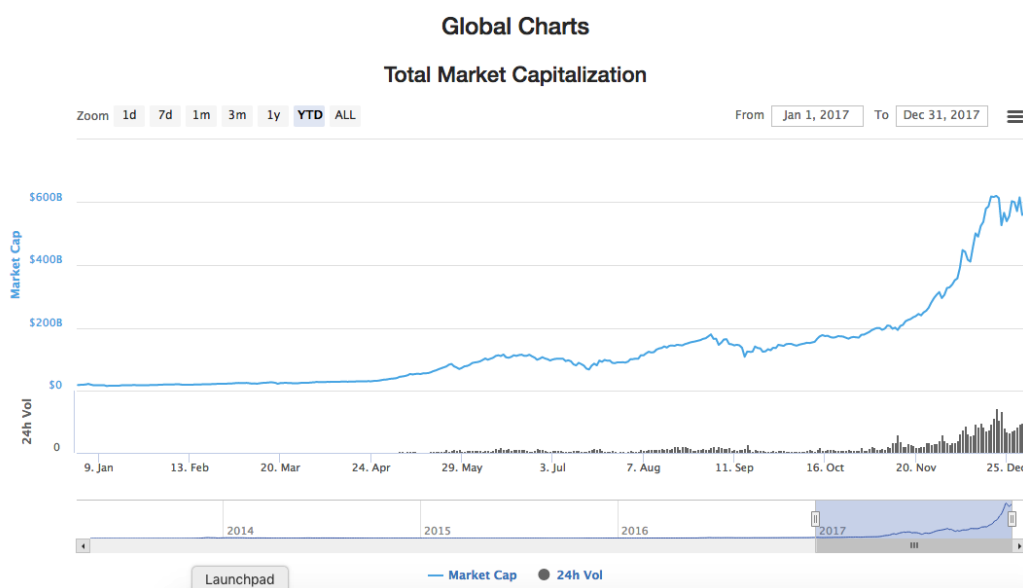


図 1 全世界デジタル資産の時価総額 出典：coinmarketcap

数百倍の成長をしてきたといえども、デジタル資産管理は相当大的な市場空間がある。世界銀行の公式サイトと中国国家統計局のデータにより、世界の GDP 総額が 100 万億ドルに近づき、中国、アメリカの GDP は 10、17 万億以上とされた。その次、投資可能な資産を考察してみれば、今アメリカ、中国、日本、フランスの株式市場の時価総額がそれぞれ 27 万億、7.32 万億、4.96 万億、2.16 万億である。居民貯蓄によると、2017 年 5 月まで、中国居民の貯蓄額は 62.6 万億人民元、およそ 10 万億ドルに達し、純貯蓄額(貯蓄額-負債)は 4 万億に達した。

中国居民の純貯蓄額と株式市場の時価総額は、GDP の規模に相当し、10 万億を超えた。全世界居民の貯蓄額と投資額度を推計してみれば、たとえ全世界 GDP の半分、即ち 50 万億ドル級に達する。しかし、今デジタル資産の時価総額は 5000 億ドルを s 超えたばかりなので、投資可能な額度の約 1% を占める。1% しか浸透しない市場にとってはまだ早期である。直接的にせよ間接的にせよ、多くの投資家がデジタル資産に関する投資に参入すると見られている。

在産業の資産や時価総額の快速に成長する後ろには、大量のプロジェクトが次々と現れたことである。その中には純ブロックチェーンプロジェクトや、インターネットブロックチェーン化、伝統産業のブロックチェーン化さえも含まれたが、それに関わる資産管理サービスはあるべき改善を得られなく、基本的施設と技術も整えなく、上層部のアプリ開発に応じられないとともに、より整えた資産管理の作り上げに需要とする人材の支持もない。これが BitCV ブロックチェーン産業管理チェーンが解決すべき問題と組み立ての生態である。

第二章、デジタル資産管理のマクロの現状

デジタル資産管理はブロックチェーンを基に出た物で、ブロックチェーン自体も人類の生産関係を深く影響して変えた。底層のパブリックチェーンと基本的施設を除き、アプリケーションブロックチェーンに頼るのは2種類の形態：一つはプロジェクト自身がブロックチェーンで解決や強化すべき勘定組織、一つはプロジェクト自身の価値の増加に伴うデジタル資産システム。しかし、日に日に成長しているデジタル資産取引に伴うのは急激な投融資管理の不足や、投資家関係管理、人材の需要、プロジェクト技術サービスなどである。デジタル資産の成長は収益の増加をもたらす一方、その不規範性は各方面のリスクを増やした。

「デジタル資産管理 (Digital Asset Management , DAM) とは、デジタル資産に対し、デジタル資産やデジタル資産形態の株式、債権、オプション、他の財産権、ポーとフォリオへの委託管理と運用、処分に通し、財産の保存や創造を目的とする総合金融サービスである。デジタル資産管理の市場は主な形式は基金業、委託資産管理業務、託業務とされる。」デジタル資産管理は相当大的な産業で、その規模は見くびられないはずである。しかし錢包(せんぽう) アプリ、支払い、取引所の以外、他のデジタル資産管理サービスはかなりの早期にあり、特に技術サービスが普遍的に足りない。その原因はデジタル資産管理が伝統的な資産管理に比べ、より技術に頼る。2方面に分けて分析すれば、1つ目は投融資過程の管理、2つ目は総合デジタル資産管理である。

2.1、投融資過程管理

今までのデジタル資産の投資や獲得は、マイニングを除き、以下の方法もある。よくあるのが取引所とプロジェクトオフィシャルサイトでのクラウドファンディング。これから 3 つ目のプロジェクトオフィシャルサイトでのクラウドファンディングに簡単に考察する。

多くのプロジェクトは、公式サイトでの交換操作がある程度にまとまっていないから、普通はプロジェクト白書を発行し、単純な紹介サイトを作るのみで、交換のルートがなく、投資家の関係を守らないのが普遍である。

さらに多くの価値のあるプロジェクトは、デジタル資産化の考え方と方法、技術さえもない。未来、大部分の商業のモデルとサービスは、今インターネットの基に構成するように、ブロックチェーンを基に組み立てるとされるかため、このサービスの価値がはっきりとなるばかりで、今の需要の増長が急激なので、潜在能力が大きいと考えられている。

2.2、総合デジタル資産管理

投融資の他、デジタル資産の時価総額の急激な増長につれ、資産管理の業務形態は必ず豊富になり、投資家の需要もさらに多様化すると考えている。デジタル資産の配置も発行市場と流通市場に限られなく、各節点、方面のプロサービス創造活動や、価値増加の段階もさらに明確になる。デジタル資産のエンドポイントにカテゴリ管理と投資ルートを提供し、デジタル資産配置ツールを開発することは日増しに重要になり、投資家とデジタル資産の属性によってデジタル資産を配置することも業務上の行為となり、システムに頼って実現する

と思われる。それもデジタル資産管理のコアコンピランスである。

デジタル資産は技術から生まれたため、他の資産管理と比べれば、分野と業種、技術の境を越える特性を持っている。従業員や開発人員として、必要なのは金融商品管理の経験と理念のみならず、デジタル資産管理に関する技術への全面的に掌握し、デジタル資産マネジングツールを柔軟に使えるのも必要だと思われる。それに応じて、BitCV は大量のツールを提供し、投資家に分散な資産管理サービスを提供できる。

例えばデジタル資産自身の価値が増加できるが、多くの投資家はデジタル資産を錢包アプリに貯蓄する。BitCV は大量の投資家データとスターティングプロジェクトリソースを持ち、すでに安定に投資する基礎を備えるため、錢包でのデジタル資産価値増加が手軽なことになる。危険選好が低く、価格変動が小さい投資家にとって、デジタル資産付加価値の管理は必要なサービスになった。BitCV は投資家が事情を明らかに知って投資に参入した場合、BitCV が提供した投資標的と資産を購入する。その他、BitCV はプロジェクト売買などの資産管理手段を通して資産価値の成長に助力できる。勿論、どんな投資をしても、明白で透明なプラットフォームが必要だと考えられる。BitCV は技術のボトムサービスと人工的支持サービスを担っている。

2.3、まとめ

デジタル資産管理の現状について、今圧倒的多数の場合はまだデジタル資産の大量な投機売買をするのみで、他に錢包や支払いなどの分野が迅速に発展してきた以外、応用とプロの金融商品はかなりの初級レベルにある。デジタル資

産は数十、数百倍のスピードで増加する時、デジタル資産の種類がもっと多くなり、投資家の入場に従い、このような需要が急激に増加するとさせる。もしデジタル資産への管理意識と、デジタル資産管理の手段や業務サービスが足りなければ、この産業にとっては不健康な発展に陥り、大きな曲折さえ現れる可能性も高いと見られる。

BitCV デジタル資産管理プラットフォームへの希望については、我々はプロジェクトの開始から発行までプロジェクトと投資家にサービスを提供し、システムの規範化とブロックチェーン技術に基づき、デジタル資産管理サービスの各段階の仲介金融機関離れや信頼性、透明度問題を解決しようと考えている。同時に、技術の達成の上に、分散で人と業務を元にしたデジタル資産管理サービスを提供し、産業生態がよくなるように努力する。

第三章、デジタル資産管理の方策

プロジェクトにおける資産のデジタル化のプロセスには、数多くの技術サービスが必要である。具体的には二つの原因がある。一つは、デジタル資産プロジェクトの実施には元々大量の技術上の知識と経験が欠かせないからである。もう一つは、資産化と資産管理のプロセスの中で、多くの技術とサービスにきちんとした基準が設けられていないからである。これらは我々に非常に多くのチャンスをもたらした。

3.1、プロジェクト投資・融資 SaaS システムー投融資 SaaS

現在、デジタル資産の最大の投融資は取引所で行われるかもしれないが、初期の段階における融資のますます盛んな勢いも見られている。そうした投資は、主流の投資行為の一つとなるであろう。しかし、プロジェクトそのものの不完備性と、投資家のプロジェクトに対する全面的かつ直観的な理解の欠乏、プロジェクトに対する進捗調査不足、並びにモニタリングに投入されたデジタル資産の安全状態の不確定性のため、具体的には以下の問題が存在している。

- 1、大多数のプロジェクトはいかにブロックチェーンに結びつくかを知らずに、資料の準備には基準がなく、公式ウェブサイトの制作が不丁寧である
- 2、融資の仕事の効率が低く、投資や引き受けを記録する統一の入口がなく、情報が分散しており、誤りが生じやすい。
- 3、ブローカー側と投資家側の間のポイントツーポイントのサービスであり、プロジェクト側と投資家側とのポイントツーポイントのサービスではない

ため、受け取る形式が単一であり、誤った操作と損失が発生しやすい。

4、投資者に対する管理は通信のツールに依存する。投資の加入者数に制限が設けられ、管理が大きく分散されている。

5、投資家には資金募集のプロセスや段階、割引、価格、退出の状況が不透明であり、進捗や状態を把握できず、プロジェクトチームとの直接的な交流もできない。

6、プロジェクト側と礎石投資家側が融資全体の進捗を把握しにくく、そのペースをコントロールすることも難しい。

以上の六つの問題に対し、BitCV デジタル資産サービスエンジンが融資とサービスのプロセスにおいて以下のような長所と解決方法をあげる：

- 1、 SaaS 化したサービスを以って、基礎情報と素材さえ入力すれば、短時間で素敵なプロジェクト公式サイトが作成でき、自分の完備した TGE(トークン Generation Event)ステーションが手に入る。
- 2、 プロジェクト公布のリンク、或いは招待のリンクを通じ、プロジェクトの状況、出来事、白書などが揃っており、しかも相応する投資者関係プラットフォームも備えたウェブサイトに入ることができる。
- 3、 投資家は現在の資金募集の段階によって、プロジェクトに許されるデジタル資産を投入する。操作と金額の記録が明らかであり、多種の資産における引き換えも便利である。
- 4、 投資家はプロジェクトの各プロジェクトの資料及び進展段階を調

ることができる。そのため、デジタル資産に対する信頼を築き、目下の収益に基づき、プロジェクト発布・準備の状況を再び概観する。

- 5、 プロジェクトの発布・進展から、どの段階に進んだか、価格はいくつであるか、どれほどの割引があるのかと、投資家自身には参加しているプロジェクトの進捗が詳しく見られる。
- 6、 プロジェクト側と礎石投資家側は、融資のペースに対する切り分けが明確であり、プロセスがコントロールでき、現在の投資者と、投入した資金のデータ、進展などが明らかに見える。すべての投資者のデジタル資産がブローカーの個人のアカウントを経由しないため、資金の安全が保障される。
- 7、 資本分析とマイニングを実現する。プロジェクト当事者が資金を割り当てトークンを生成した後、BitCV はブロックチェーンデータの分析を通じて資本フローを追跡して分析する。

BitCV デジタル資産サービスエンジンを通して、デジタル資産の引き受けのプロセス、特に初期の資産引き受けのプロセスにおける規範性と安全性の問題を解決した。それはデジタル資産引き受けのユーザーの規模の拡大と資産引き受けの健康性・安全性に非常に重要かつ積極的な役割を果たしている。

独立なプロジェクトごとに、その情報とデータが他のプロジェクトと区別され隔離される。プロジェクト側にとって、ドメイン名からプレゼンテーションまで、あらゆるものが独立的かつ唯一であり、専門的かつプロフェッショナルなイメージが作られる。ユーザーにとっても、無用の情報からの妨げを避け、

現在のプロジェクトそのものに集中することができる。

3.2、デジタル資産の深掘りと調査研究—財金通

デジタル資産の投資と配置は、疑うまでも無く、将来資産配置の重要な方法である。しかし、投資の本質はリスク評価と価値評価であるということも見逃してはいけない。

デジタル資産の投資規模の迅速な拡大によって、大勢の起業者がこの分野になだれ込み、自分の ICO プロジェクトを開発した。しかし、実際には、ブロックチェーン領域における起業はなお比較的ハードルが高いことである。まず、その技術上の基本的な要求は、一般的な応用開発分野より高く、しかも一種の真新しい技術への認識をもってその分野の関係、データ保存と技術上の実現を理解しなければならない。そして、ブロックチェーンプロジェクトは最初から、ユーザーとしても、サービスを提供する者としても、発行者としても、グローバルな視点をもって物事を行う必要がある。

プロジェクトのレビューと発布においても、大多数のプロジェクトチームは非常に専門性に欠けるそうである。通信ツールを利用してワールドファイルを通じて関連の資料を発布し、しかもほとんどのレビュー用の資料が一部のウィーチャットにおける公式アカウントから来たものであり、書式さえ一致していない。丁寧な計画と準備が無かったことが分かるであろう。しかし、そうした資料であっても、ほとんどがプロジェクト側から提出されたなまのものである。プロフェッショナルなマスコミ関係者や投資家、技術専門家がプロジェクトに対して全般的で客観的な分析と理解を行うことはない。一般の投資家にとって

も、価値と意義が極めて普通ではないか。

BitCV のサービスは、プロジェクトに対する全面的で客観的な調査研究に基づき、さらに厳しい背景調査と技術分析に基づいている。BitCV チームにはベテランの投資家、ブロックチェーン技術の専門家、及びプロのメディア従業者がいて、投資・メディア・技術上の知識と経験をまとめ、プロジェクトのあらゆる方面を深掘りする。さらには優れたプロジェクトに対し、プロジェクト分析とブロックチェーン技術応用サービスを提供する場合がある。また、プロジェクトチームへの背景調査、プロジェクトの技術実力への評価、関連するプロジェクトの比較分析、及び同プロジェクトの投資家へのインタビューなどにも力を入れ、個人投資家が全面的に、公平に、客観的にプロジェクトのあらゆる方面を理解するように努力する。

3.3、デジタル資産管理の評価・測定プラットフォーム——チェーン評価・測定

3.3.1、プロジェクトに対する評価モデル

BitCV はデジタル資産サービスエンジンとして、システムサポートプラットフォームを建設する以外に、デジタル資産の融資を定期的に透明にする。また、深掘の報道をし、将来性のあるプロジェクトがより人気になるようにする。さらに、既存のプロジェクトのデータに基づき、一流の企業の最高基準、BitCV がサービスを提供しているプロジェクト、及び投資家などの各方面のデータ保存と分析を着目・深掘・分析・発展し、ビッグデータと人工知能技術に基づき、プロジェクトの価値発見、プロジェクト・投資家への評価を行う。その同時に、

伝統的な金融分野における多くの従業経験に結びつき、BitCV 特有のリスク評価シートとリスクコントロールのモデルを研究・開発する。

これには一連の技術基準とモデルの設立が必要である。チームメンバーの履歴と過去の背景から、プロジェクトの応用領域と資源の準備状況、およびプロジェクトの資料と白書の情報まで、通常条件と専門家の評価・測定の他に、同類のプロジェクトの総合的なランキングも欠かすことができない。初期には人的関与があるが、後にはまったく自動的なプロセスとなる。各次元の評価・評価のほか、過去のモデルとデータに基づく分析もある。例えば、機械の学習モデルを利用して人工知能の評価と将来性の予測を行う。そのプロセスには数多くの分析とデータの計算が不可欠である。それに対して、BitCV チームはかなり多くの経験を持っている。

3.3.2、投資家に対する評価モデル

起業家がブロックチェーンデジタル資産分野になだれ込んだと同時に、より多くの投資化もその分野になだれ込んだ。しかし、その分野に高成長がある一方、ハイリスクもある。特に、短期的には、ハイリスクの可能性が非常に大きい。そのため、投資家にも評価モデルを設立する必要がある。そのモデルには、投資家のデジタル資産とブロックチェーン分野への認識が含まれ、他の分野における従業の経歴に対する分析も行わなければならない。分野における経験はプロジェクトそのものへの理解には貴重なことである。また、モデルには投資家の投資に対する予測の調査が含まれば、そのリスクに耐える能力のモデル採点も含まれる。当然なことに、その各プロジェクトへの投資行為を考察し、相応す

るデータの分析結果を提出し、ふさわしい投資上のアドバイスを与える必要がある。

評価を通じて、デジタル資産領域のプロジェクトと投資家の基準が実際に立てられるのである。

3.4、デジタル資産 OMO(Online-Mobile-Offline)サービス ——ブロックチェーンサービス

BitCV はデジタル資産管理エンジンとして、技術サービスのほか、デジタル資産分野全体の互惠・協力に貢献する責任及び義務があり、しかもそれはプロジェクト側と投資家側に利便性を促進するためでもある。それには技術、教育、人材など各方面のサービスが含まれる。主に以下の点がある：

1. 伝統的な資産をブロックチェーンデジタル資産化するサービス
 - A、 価値のあるインターネットプロジェクト、さらには伝統産業のプロジェクトに着目し、ブロックチェーンの場合に結びつくことができるものに対する、プロジェクトの初期計画から取引所へ上場のまでの一連の養成サービス。BitCV は技術の面から入り込み、計画から実現までの一連のサービスとツールを提供する。
 - B、 BitCV は情報を収集し、貿易リスクアセスメントを提供するための資産管理ツールを提供しているが、社会団体に富の専門家は投資家の年齢、背景のほか、職業、婚姻、リスクなどにも基づいて資産配置のアドバイスをするのも欠くことができない。それが仲介抜き社会団体運営モードである。

C、 投資家の教育もプロジェクト側の技術開発教育も含まれるブロックチェーン教育サービス。

- a) ブロックチェーン技術がなお初期段階にあり、さらには社会にはいまだブロックチェーンとデジタル資産に対する誤解が存在しているため、BitCV がコアユーザーである投資家の立場から、ブロックチェーンの発展と認識を紹介し、常識教育を行い、プロジェクトの背後になる基本的な概念と原因が理解されるようにする。
- b) 次は現在ひどく不足している技術人材の養成である。初期のデジタル資産とブロックチェーンを開発する人材には、バックエンド技術と基礎言語という技能が求められるのは一般的である。が、現在のスマート合約の開発段階では、開発者への技術上の要求が下げられ、スクリプト言語の勉強と開発モデルの熟練さえすればブロックチェーンプロジェクトの開発に着手することが許される。それらの面では、大量の新人の育成、或いは他の分野からの転業、企業内部の従業員のトレーニングが必要である。

以上の二種類のサービスも BitCV のコミュニティサービスに属する。目標に直接関わるトレーニング(例えば、トレーニングが終わったら就職するまたは習ったらすぐプロジェクトの開発を始める)以外に、通常のエデュケーションサービスは、コミュニティ活動、サロン、小型会議または領域会議の形で行う。

D、 人的資源の供給と技術のコンサルティングのサービス。

BitCV はプロジェクトと協力し、プロジェクトの内部まで入り込んでサービスを提供する。プロジェクトに合わせてヘッドハンティング

グのサービスを提供し、研究開発技術者から運営・管理職まで人的資源を供給する。資源をプロジェクトの開発にも、技術コンサルティングサービスを提供する。技術上の難点を解決するコンサルティングが通常のサービスになる。

BitCV は、自らの努力を通して、デジタル資産プロジェクトの初期的な発布に力を添え、サービスプラットフォームを提供するだけではなく、技術開発から人材育成まで実行可能のシステムを構築することも望んでいる。そのほうが領域全体の互惠・協力に有利からである。

3.5、BitCV デジタル資産管理チェーン

ブロックチェーン技術は自然にポイントツーポイントのペイシステムをサポートし、また金融領域に自然に貢献している。そして、デジタル資産管理領域も、デジタル金融領域の子分野である。集中避けと改ざん防止という特徴を持つブロックチェーン技術は必ずの役割を果たし、さらにボトムを果たさなければならない。我々のボトムがより便利で使いやすいになるように、また関わるプロジェクトに利便性を与えるように、我々はBitCVデジタル資産管理チェーンを開発し、未来のデジタル資産管理に着目し、集中避けのボトムサービスプラットフォームを構築し、SDK(Software Development Kit)を提供し、プロジェクト側をサービスの対象にし、デジタル資産管理がより効率良くて安全、信頼できるようになるように励む。

デジタル資産管理チェーンは資産管理サービスシステム全体に以下の四つの特徴がある。

1、 集中避け

伝統的な資産管理行為に、中心部門からの大量の人的関与と審査行為が存在する。それに反して、BitCVデジタル資産管理のボトムが、ブロックチェーンとスマート契約技術に基づき、資産管理の毎回のデジタル資産の往来・取引がブロックチェーンに記録され、同時にスマート契約に予定されたロジックによって、自動的な実行が触発される。そのように、情報を偽造・改ざんすることができないというブロックチェーンの特徴を利用しただけではなく、仲介と集中的な審査を避けることもできた。たとえ人的サービスがあるとしても、専門家と投資家との間にポイントツーポイントのように行われる。BitCVは技術的なプラットフォームとサービスのみを提供するのである。

2、 透明性があり信頼できる

伝統的な資産管理の不透明性、即ち資金の行き先の不透明性が、資産管理のコントロールを失うことにつながり、さらには比較的に悪性の事件を招く場合がある。一方、BitCVデジタル資産管理チェーンに基づいては、投融資の資金の行き先及び引き換えが非常に明確で調べることができ、しかも偽造・改ざんは不可能である。資産管理の値上げによる収益や資金の出どころも明確である。それによって、資産管理がより透明性があり、健康的で信頼できるようになる。ブロックチェーンには匿名がルールであるが、ある資産、つまり実名が必要なものには、本当の資産所有者が見えるはずである。例えば、ネットで資産担保ローンを借りる際の専用アカウントである。実際に、これは信頼性と透明性に要求されている。一方、当然のことに、個人のユーザーには、そのプライバシーを匿名で保護しなければならない。

3、ブロックチェーンに跨る引き換え

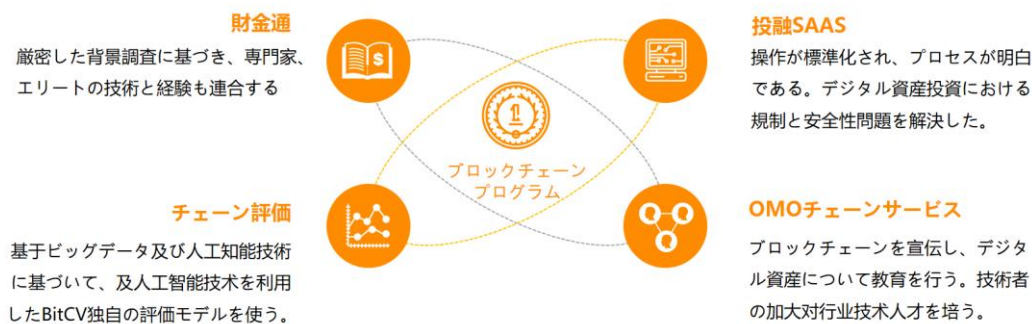
デジタル資産管理に従事するには、最も多い仕事が資産間の相互引き換えである。そして、一般的な取引所と違って、相互の引き換えはBTC、ETH、USDTといった主要資産に基づく引き換えである。そのため、資産管理プラットフォームではいずれのデジタル資産の種類も許されるべきである。ボトムがスマート契約に基づくから、デジタル資産契約のパスワードを変えないままで、既存の電子マネーが既存または未来のいずれのデジタル資産或いはトークンを受け入れられる。例えば、現在のERC20型のトークンが容易にイーサリアムウォレットに着金することができる。新しいERC20トークンの支払いに対しては、プロジェクトの構造を変えずに自動的に行える。よって、ユーザー自身のデジタル資産の種類を、サーバーでプロジェクトを作った際に設定でき、しかもユーザーが自動的な引き換えを完成することができる。また、一般的なデジタル資産に対しては、キャッシュプーリングまたはインターレジャー・プロトコルを利用して、デジタル資産の類別を跨る支払いが可能である。

4、効率良い取引

資産管理システム内部のデジタル資産の支払いと実際入金に対し、もし伝統的なビットコインネットワークとイーサリアムネットワークに基づく、そのユーザーシステムが極めて良くない。そのため、資産間取引の良い効率も求められている。OTC取引プラットフォームが採用したアカウント管理制度を用い、その同時にさらに効率よいメカニズムを使うのは良い。具体的なブロックチェーンの技術的な実現では、高い効率と安全性を兼ねたブロックチェーンを跨る取引を保証するために、サイドチェーンを採用した。しかし、根本的には、ブロック

チェーン資産そのものの効率良い取引と支払いに対する価値の実現は困難で必要が無く、資産の価値がより重要であろう。

一言でいわば、SaaS の目的はプロジェクトの投融資をより便利にすること；財金通の目的はプロジェクト側と投資家側が領域の情報と動きをより全面的で詳しく深く理解・観察するようになること。そして、ブロック評価・測定はプロジェクトの全体像を描き、その評価をするためである。また、チェーンサービスは領域全体の互惠や発展に貢献し、プロジェクトそのものをもさらに良く発展するようにするためである。その四者の関係は以下のようなものである：



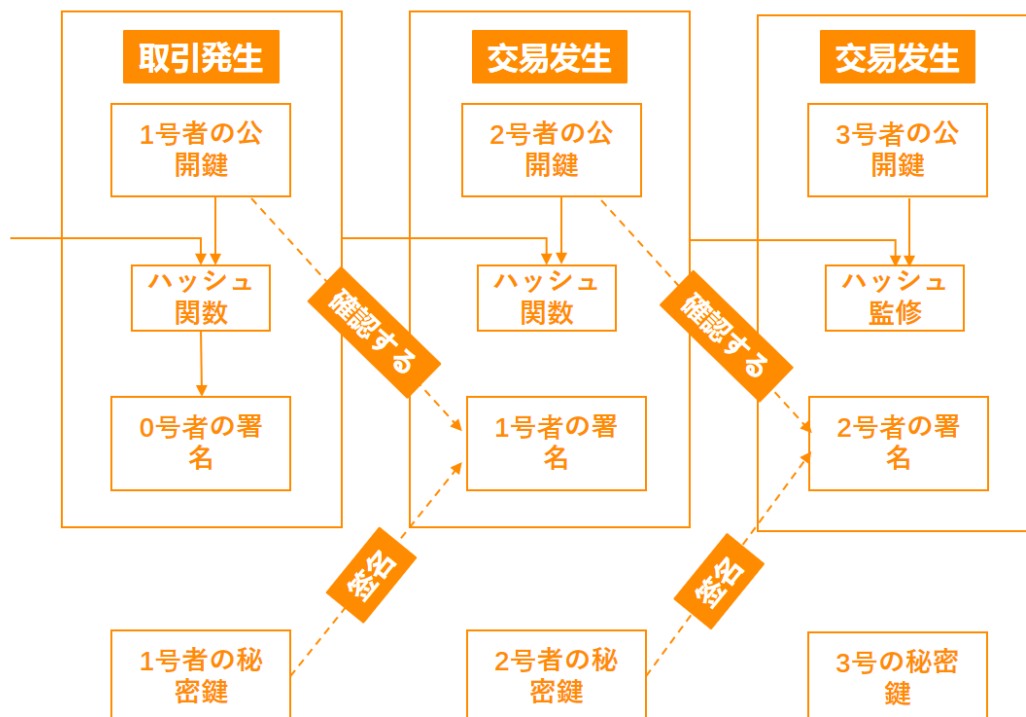
第四章、プロジェクト技術の構造と製品の実現

4.1、BitCV デジタル資産管理チェーンの設計

BitCV は応用型のブロックチェーン製品である。我々はブロックチェーンとすでにある技術をデジタル資産管理の分野に使い、原則的に、基礎的な研究と開発を大規模にしない。前期の研究と開発において、我々は以下の技術を使った。

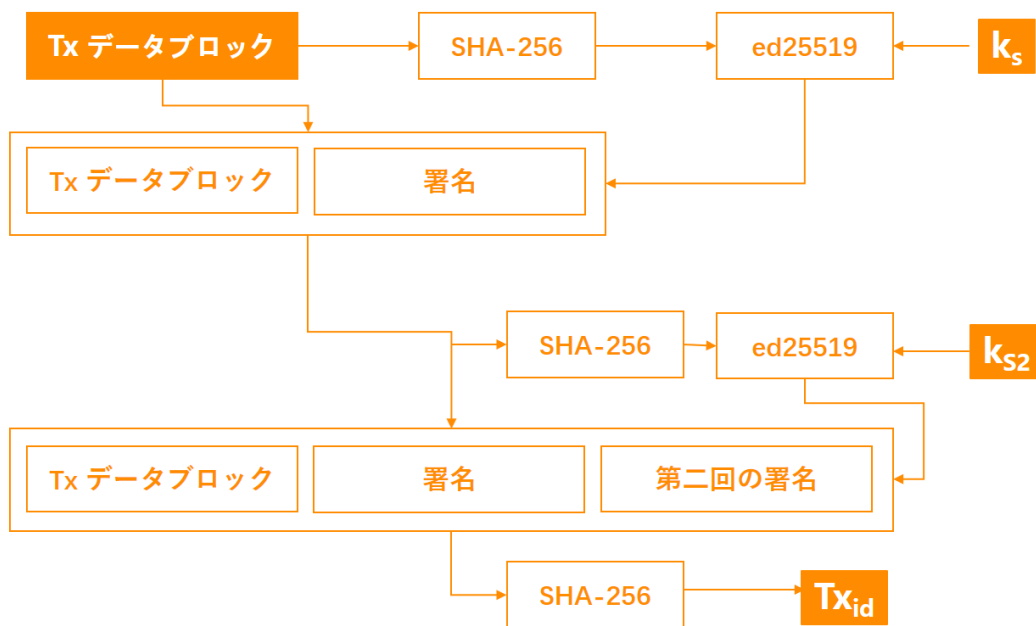
1、 ブロックチェーン分散型元帳技術

なぜサトシ・ナカモトはビットコインのベースにブロックチェーン技術を使ったのか。P2P 型の支払いを解決するビットコインは、必ず信頼できる台帳に基づくからである。ブロックチェーン技術による台帳の記録は、前後の記録につながっている。以下の図が示すようである：



次の取引に、前の取引の確認と署名が残る。したがって、一つの取引のデータを書き換えようとすれば、その以降のすべての取引データを書き換えなければならない。しかし、取引が急速に増えているので、とりわけ大規模の分散型の状況で、改ざんや偽造などが実は不可能になる。

具体的な技術実現と取引において、一つの事務データブロックが生成した後、SHA-256 と秘密鍵が生成した署名はデータブロックに追加される。こうして繰り返している。もし一つの事務操作に多くの段階があれば、その一つ一つの段階に署名を追加する。以下の図が示すようである。:

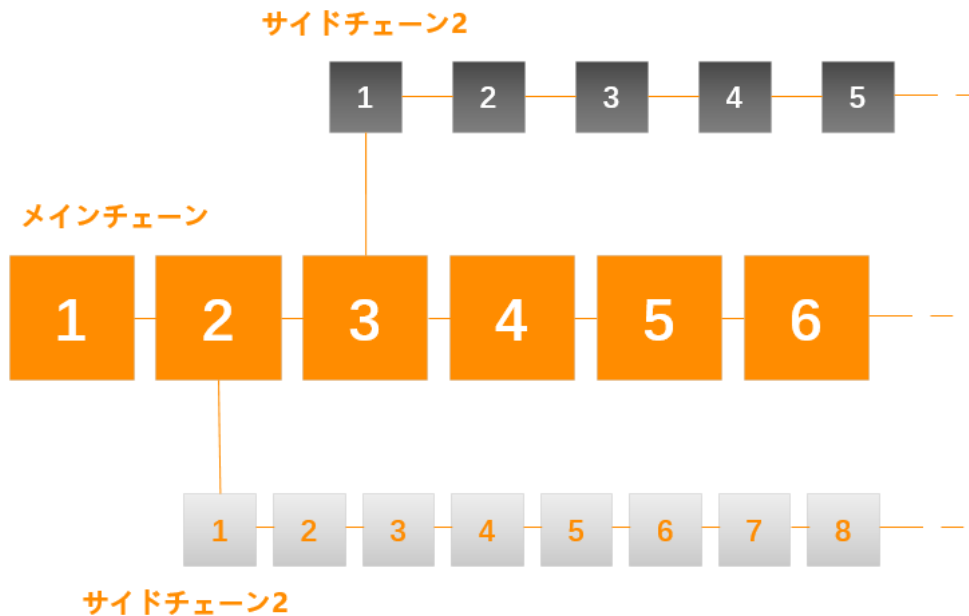


ブロックチェーン技術を利用する BitCV は、すべての資金にかかわる取引を記録する。まずはサイドチェーンまたはオフチェーンに記録と取引をする。最後は BitCV の資産管理メインチェーンに記録する。そうすれば、資産管理のメインチェーンは、取引記録の増加につれて増加しており、改ざんも偽造もできないブロックチェーンであることが保証できる。

2、 サイドチェーンとクロスチェーンの取引技術

現在のブロックチェーン技術に最も大きな問題とボトルネックの一つは、長い決済期間と、より複雑な確認手順である。基礎的なプラットフォームにとって、このように合意によって確認される体制が納得できる。さらに、国境を渡る支払いにとって、長い決済期間も納得できることである。国境を渡る支払いがかかる時間は、伝統的に日で数えられる。しかし、小額の取引および頻繁に発生する取引にとって、ユーザーエクスペリエンスが極めて悪い。そのため、BitCV 資産管理プラットフォームに対して、我々は二つの技術を採用し、決済期間を短縮する。また、それをメインチェーンに書き込む。

効率的な P2P 分散型元帳技術。このような台帳の記録が普通である。例えば、取引所に、OTC であれ、デジタル資産の取引であれ、入金が即時に口座に届く。そのような台帳の記録は伝統的なデータベースの操作である。ブロックチェーンのデジタル資産の入金は他の方式を使う。ユーザーが見えるのはデータベースが即時に効くことが、ベースの取引処理は即時ではなく、時間がかかる。ブロックチェーンのデジタル資産の即時取引と、クロスチェーンを支える技術が望ましい。そのため、BitCV はサイドチェーン技術を使う。また、各技術を総合的に評価した後、我々は LISK プラットホームを選んだ。



ここでサイドチェーン技術を簡単に説明する。

サイドチェーン技術は、メインチェーンの複雑で長時間の取引確認を解決するためのデザインである。メインチェーンの資金がロックされた状況で、ある程度でサイドチェーンに低い確認率の効率的な取引が実現できる。取引が終わったあと、条件に合致すると、メインチェーンに戻る。

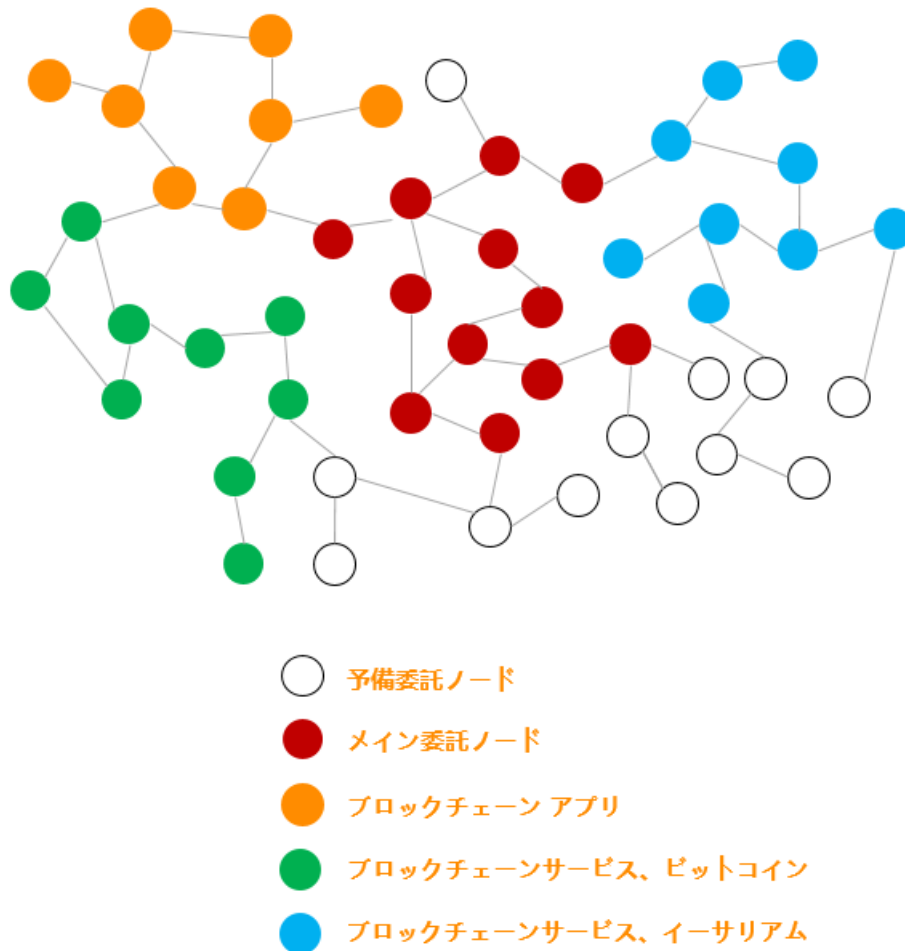
もちろん、それ以外に、中間準備資金プールを使って各デジタル資産の素早い為替と移転を支えることも考えられる。

3、 DPOS アルゴリズム

イーサリアム と LISK を基づいて資産管理チェーンを構造する BitCV は、DPOS アルゴリズムを使っている。

伝統的な POW は、大量の計算と、仕事の証明を確認する場合に適用する。つまり、計算力によってデジタル資産が生成する場合である。しかし、BitCV は素早くて効率的な確認が必要なので、我々は BitShares が発明し

た DPOS を採用する。



クロスチェーンの取引にかかわるので、前の図で、我々は多種のブロックチェーンサービスにある DPOS プロセス を展示する。

一つのブロックチェーンシステムの中で、DPOS にある数多くのノードはブロックに署名している。署名しているノードは、ブロックチェーンを使うノードが非中央集権型の投票で生成したものである。こうして、正確と公平が保証される。それと同時に、署名されたブロックに、前のブロックが信頼できるノードによって署名されたという証明を持っている。DPOS は決済時間を消す。ブロックチェーンシステムの中に、中間アカウ

ントの体制を使い、素早く資産為替を行っている。

4、 スマート契約技術

デジタル資産の出現によって、本当の P2P 支払いができるようになった。その支払いの背後に契約の履行がある。イーサリアムシステムは、ビットコインの契約プログラミングにある不足を改善し、スマート契約を便利に実現する。スマート契約とは、イーサリアム仮想マシン (Ethereum Virtual Machine , EVM)に行っているアプリまたはコードのことである。外からの取引請求 (支払い請求に限らず、ゼロ費用の支払い命令でもいい) とイベントによって発生する。事前に定義しておいた契約条件に合致すると、新たな取引とイベントができる。さらに、スマート契約はもう一つのスマート契約を執行することができる。



資産管理の毎回の取引にとって、ブロックチェーンをベースに記録すること以外、事前に定義しておいたスマート契約をイーサリアムプラットフォームに設置することができる。そして、実際の取引と命令がスマート契約を起動することを待っている。例えば、ユーザーは、購入サイクル30日、年間収益率15%の保証された付加価値サービスを買えば、そのサービスの時間と収益率などがすべてスマート契約に書き込まれた。投資者は買

った後、それにかかわる資産はスマート契約におくり、目的アカウントに振り込まれた。約束の時間になると、収益のスマート契約は自動的に執行し、収益も自動的に目的アカウントに引かれ、投資者に返却する。そして、取引の記録が保存され、サービスが終わるとともに、スマート契約も自動的に執行され、取引が閉ループになる。この操作は伝統的なタイミグプロジェクトもできると考えられる。しかし、過去では、この操作は仲介者を通し、契約も公開できないことである。今では、この操作はブロックチェーンに基づいて、イーサリアムあるいは他の基礎的なチェーンをプラットフォームとして、仲介者を通さず、契約のコードも誰も見せられる。

要するに、BitCVの資産管理チェーンは応用型の製品として、ブロックチェーンに基づいて、強化されて、展開された技術を用いる。今の状況で、相対的に成熟した技術を使うのが実行可能の方法である。

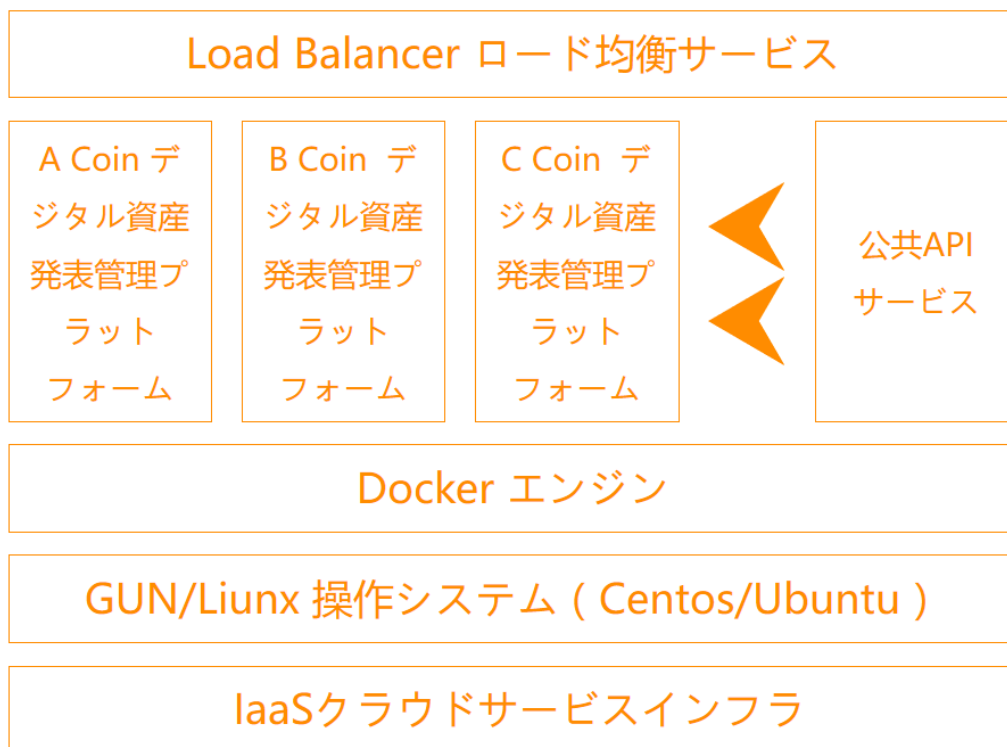
4.2、信頼と展開できるマイクロサービスの構造設計

ブロックチェーンの基礎的なデジタル資産サービスプラットフォームとして、まずは SaaS クラウドサービスを提供する必要がある。すべてのプロジェクトは全世界のユーザーに向け、多端末ができるから、信頼できるサービスを保証することが必要である。信頼度が 99.99% 高く、拡張と保護しやすいプラットフォームは我々の目標である。

また、デジタル資産管理のサービスプラットフォームとして、大量のユーザーのデジタル資産為替に関わるデータを持っている。ユーザーはデジタル資産を買った後、それに応じたトークンまたはデジタル資産が公式ウォレットに

振り込まれる。しかし、統計データと中間ストレージはプラットフォームの内部に保存される。そのプロジェクトに対して、SaaS を設定し、独自ドメイン名を設定し、独自ウェブコンテナを利用してサービスを提供する。こうしてデータの隔離が実現できる。一つのプロジェクトに、容量によって、一つあるいは多くのウェブコンテナを設定してサービスを支える。フロントエンドにロードバランサーを設置して、ストレスを分担する。

基本構造設計は以下の図が示すようである。



一つ具体的なウェブコンテナに、または公共 API サービスに、ストレスと拡張のニーズによって、分散型の構造部署が採用された。具体的な開発に実現について、まずは成熟したインターネット基礎構造設備を使う。例えば、Webの開発に LAMP 構造を用いる。Web スクリプトからデータベースまで、バックエンドの強いストレスがある部分に、ミドルウェアを使って効率的にデータ

とキャッシュメモリ-を処理し、データベースに保存する。異なるロジックに対して、Redis、Kafaka のように成熟した構造を採用する。

4.3、簡潔で使いやすいプロジェクトと投資プラットフォーム

4.3.1、基本情報を記入し、クリックでプロジェクトのホームページが生成

BitCV はサービス用の技術道具である。大衆投資家にプロジェクトを見せること、およびプロジェクトを広めることをしない。独自ウェブを申し込み、査定された後、SaaS プラットフォームができる。

4.3.2、プロジェクトサービスで投資者に明白な情報を提供する

まず、デジタル資産投資の価格を定めるルールをはっきりして展示し、限度額の為替ができる電卓も提供する。そして、多種の資産を提供できるウォレットアドレスを提供し、ユーザーはこれを利用して、デジタル資産を振り込む。ユーザーお金の振り込み、お金の為替とプロセスが見える。また、ユーザーのプロジェクトのプロセスと段階も見える。

投資者はプロジェクトへの疑問と協力してほしいところがあれば、プロジェクトを受ける方はその疑問を解答する義務と責任がある。

4.3.3、プロジェクトを受ける方は、プロジェクトの段階とプロセスが分かる

トークンとクラウドファンディングは、限定額に限らず、クラウドファンデ

イングのスケジュール、ソフトウェアのプロジェクト、ハードウェアのプロジェクトも明確にする。そして、時間と節目によって、違う価格と報奨金制度を設定し、リベートシステムを勧める。また、多種のデジタル資産で投資と支払いをすることもできる。10 種以上よく使っている資産で支払うことが可能である。Bitcoin, Ether, Litecoin, Ripple, BitcoinCash に限らない。

4.3.4、プロジェクトデータの企画を通して、融資方を助ける

プロジェクトを受ける方にとって、上記のような資料の編集と修正を除き、プロジェクトの全体を把握することも重要である。例えば、融資とソフトウェアプロジェクトの時間がいつか、今のプロジェクトはどれほどのデジタル資産を換えるか、あるデジタル資産がどれほど振り込まれたか、何人の投資家が参加したか、今の時価総額がどれぐらいか。投資者の分類とまとめを統計する。

4.4、未来の製品への企画

上記の四つのサービス、基礎的なプロジェクトと投資者へのサービス以外、我々は以下の製品と基礎施設を開発していく。このようにして、資産管理のプラットフォームの基礎技術サービスシステムを設ける。

- A、 ユーザーが多種のデジタル資産を保存しやすいように、クロスチェーンの支払いで多種のデジタル資産ウォレットシステムを構築する。プロジェクトに投資し、さらに、安定した投資システムを開発し、安定したデジタル資産投資を通して、資産の価値を上昇させる。BitCV プラットシステムで、安定したデジタル資産に対

して、穏やかで資本金が保証される収益を得られる

- B、 有名なデジタル資産ファンドの投資に参加できるシステムを開発する。有名なデジタル資産ファンドはよく参加しがたい。大衆でも直接投資に参加できて、ファンド投資から利益を得るように、BitCV は小額から高額までのファンドを念入りに選んだ。ある程度リスクがあるが、相対的に収益もさらに高い。
- C、 デジタル資産と実物資産が交換できる競売プラットフォームを設ける。未来では、デジタル資産は実物資産と直接交換できる。BitCV プラットフォームに、デジタル資産と実物資産が交換できる。
- D、 プロジェクト的で量的な取引プラットフォーム。デジタル資産は相対的に量的な取引に適用するので、我々は投資者のために、多元的な投資の方式を建てる。

第五章、BitCV 財団のガバナンス構造

5.1、BitCV 財団の設定

BitCVFoundation (BitCV 国際財団、以下財団と呼ぶ) は、海外で設立された BVI 企業であり、BitCV チェーンの国際的なポジショニングと影響力に基づいている。財団は、BitCV システムチェーンプラットフォームの開発、発展、建設に力づけ、透明なガバナンスと DAO モデルの管理を提唱し、デジタル資産管理とバリューチェーンの参加者と愛好者に本当に基金会を属させ、オープンソースの社会の安全と調和発展を促進する。

5.2、BitCV 財団のガバナンス構造

BitCV 財団のガバナンス構造には、日々の作業と特別な状況に対する操作プロセスとルールが含まれている。BitCV は自然に分散された DAO ガバナンスモデルを尊重し、すべての BitCV プロジェクト参加者が BitCV 財団のメンバーであり、BitCV の開発価値と共通の策略決定力を共有する自然の従業員であると信じている。BitCV の重要な事項が、全員の共通の投票にきめられる。開発および策略議題が、BitCV 参加者は、いつでもフォロワーをアピールして組織することができる。

最初の BitCV 財団の意思決定委員会は、5 人の創設メンバーで構成され、4 年の任期が決められる。創設メンバーには、ブロックチェーン、テクノロジー、ファイナンス、メディア分野に豊富な業界経験がある。期限が切れた後、BitCV 連鎖デジタル資産の持分と BitCV 保有資産の年齢に応じて 50 人のコミュニティ

ィ代表者がコミュニティから選出され、最終的に意思決定委員 5 人が選出される。

5.3、BitCV BitCV 財団の貿易安全と監査

5.3.1、BitCV 取引の安全性

ブロックチェーンコンセンサス、スマートな契約やその他の技術とデジタル署名、エンドユーザーの暗号化ウォレットなどの安全性対策を介して BitCV システムチェーンは、ユーザーアカウントと財政の安全性を確保する；

BitCV システムチェーンは、データ、アプリケーション、取引をブロックチェーンクラウドに統合し、安全な取引ネットワーク環境を構築するための財務レベルの安全なデータストレージ、ネットワーク、およびプラットフォームリソースを効率的に統合する。信頼性の高い取引プラットフォームと技術的な専門家との安全な取引を構築する。。

5.3.2、監査

BitCV システムチェーン委員会は、誠実かつ倫理的な業務慣行基準の高い基準を維持し、関連法規および業界の自己規律原則を遵守する；

毎年、BitCV システムチェーンは、BitCV システムチェーンの資本、コスト、利益配分の使用を定期的に監査および評価するために、国際的に有名な第三者監査員を招待する；

BitCV システムチェーンは、第三者の機関による評価と監査の結果をすべて公開する。

第六章、チームと投資家についての紹介

6.1、核心チーム



伍星 共同創業者

清華大学五道口金融学院グローバル創業リーダークラスの成員。2004年に北京工商大学を卒業した。和君第六回自組織管理チームの核心メンバー。創新工業兄弟会第三回クラスの級長。開心ウェブサイトの創始チームの成員。高級フルスタックエンジニア。国内におけるIT職業教育優才学院を創業し、創新工場などから多様な融資を受け、開心ウェブサイトの数億ものUVのデザインやパフォーマンスの最適化を主導し、99.99%以上の信頼性のあるサービスを実現した。役割：基金の技術とプロジェクト総体の戦略企画。



熊家貴 共同創業者

清華大学を卒業した。Sinaのプロのベテランエンジニアであった。愛問爬虫グループのリーダー、開心ウェブサイトの首席エンジニア。Linux、Unixのベース開発の専門家で、独立でストレージ、通信など様々な中間サービスを実現した。開心ウェブサイトの数百万ものインスタントメッセージシステムの設計を主導したという経験を持つ。役割：デジタル資産システムのベーシックプロトコルと信頼性のあるベーシックプラットホームの設計などの主導者を務める。



刘志华 共同創業者

フルスタックエンジニア。2004 年北京工商大学コンピューター学科を卒業した。ハリバートンに就職した。中国石油天然気集团公司、中国石油化工集团公司など大手会社の石油サービスデジタル化システムの開発に参加した。開心ウェブサイト初期の技術チームのメンバー。販売営業支持管理部の仕事を担当した。2013 年に技術責任者として中国人民大学デジタルスクールを開発し、2014 年に優才創智に入社し、CTO を務める。インターネット製品のデザイン、Front-end と backstage supporter 多種技術開発管理が得意である。



文玲 共同創業者

北京大学投資管理学の修士。アップルのエンジェル投資家「華人創投資の父」李宗南の中華区域の助役。アメリカ Shan Kwong 資本の中国市場の責任者。創新工場総監の助役。インターネット会社 K 1 2 通信制教育会社の共同創業者。今の PPTEAM プロジェクトの創業者。一流のインターネット創業会社や投資会社の管理者に魔法的な表現技術サービスを提供している。パートナー企業にはテンセント、今日頭条、国家電網など大手会社がある。

6.2、プロジェクトの顧問



冯新

炭素 9 加速器の創業者



喬帥

清科晨光のパートナー



郭宏才

ビットコイン界の専門家



劉江

星輝資本創業パートナー



吴澍

エンジェル投資家



黄天威

ビットコイン時代の先駆者



江恩

ドージコインの会長



陈菜根

為友資本のパートナー



徐繼哲

亦来云の共同創業者、ブロックチェーンの

専門家



黎躍春

孔壹学院の創業者と CEO



程炳皓

開心ウェブサイトの CEO、投資人



朱波

創新谷基金の創業者



余水

KCash の共同創業者



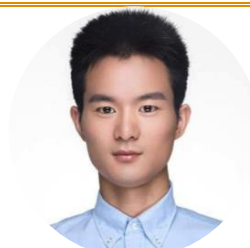
王朝薇

維瓴財富の創業者



徐昕泉

樂視集團ロシアと東ヨーロッパの総裁



蒋傑

R-Coin 基金の創業パートナー



羅飛

国内 AI 開発の先駆者

6.3、組織

GENESIS

创世资本

创世資本



星輝資本



炭素 9 加速器



広禾資本



火の種資本



夢工場基金



創新谷基金

第七章、デジタルトークンの発行と使用

7.1、BitCV デジタルトークン BCV についての説明

BitCV デジタルトークン、BitCapitalVendor Token を簡単に言えば、BCV と呼ぶ。これは BitCVFoundation による公式に発行した原生的なコード化暗証番号である。清算、交易、またはスマート契約の実行などのため、BCV はイーサリアムにおける ERC20 に基づき、スマート契約によって作成させる。

デジタルトークン BCV を合計 12 億枚発行し、BitCV による一度限りに作成させる。その総量は制限させ、変えることも増えることもできない。デジタルトークン BCV は一定の規則や比率によって違う株主に配り、その中に一定の比率の BCV は適当に特定の消費者に向き、資金を募集する。この資金はブロックチェーンのベーシック建設、製品モードの開発、アプリケーションの環境、基金会全体の運営と維持などに使われる。

デジタルトークン BCV の株主は投票で記帳者を選挙できる。また、他の株主と一緒に基金と BCV のデジタル資産に関する重要な出来事の決定に参加できる。

7.2、BitCV デジタルトークン分配方針

比例	数量	方案	备注
40%	4 億	株式割当発行	基金運営のため（主に開発、マーケティング、運営などのコスト）。
25%	2.5 億	チームへの励まし	開発するとき、努力したまたは成果のあるチーム。トークンは一年間ロックされ、流通できなくなる。ロック済み毎月 10% ずつ放せ、10 ヶ月にそれを完成する。
30%	3 億	資管生態の建設	高品質なサービスを提供するため、デジタル資管の建設にはたくさんのパートナーと上下流の生態資源の整理が必要である
5%	0.5 億	顧問、アドバイザー、イザリーサー、ビジネス会社と資源団体	デジタル資管の建設には外部の技術の専門家、業界の専門家、または顧問の支持が不可欠である。

7.3、BitCV トークン発行企画

トークン BCV の発行は厳しく世界各地の法律に従い、適度な方法でお客様に発行する。発行数量は合計 12 億枚、その中の 40%、つまり、4.8 億枚は社外に向き、販売する。具体的な募集方法は以下のように示す――

時間：2018 年 1 月 26 日午後 8 時から 1 月 31 日午後 8 時

方法：基金、組織、特定のグループを誘う。

額：30000ETH

期間：5 日

価格：1ETH=16000BCV

証券取引所で公式売買する

時間：2018 年 2 月上旬

7.4、BitCV トークンの利益モデル、支払い方法と再購入企画

BitCV は、アンダアルファインディングチェーンと結びつく適用業務向きブロックチェーンのため、利益は速やかに儲かる。デジタル資産やサービスの費用を支払う時、デジタル資産トークン (BCV) で支払うことができる。システムの費用、コンサルティングサービス料、分権的なポイント・ツー・ポイントの労務費も含まれている。例えば、SaaS サービスを購入する時、モデルを評価する料金を支払う時、専門的な説明と評価する料金を支払う時、クイックポイント・ツー・ポイントペイメントとプラットフォームの中の取引にも BCV で支払うことが応用できる。我々の請求料金は以下の通り示している：

- ・ **プロジェクト SaaS プラットフォームの使用料金**
- ・ **IRM の年費**
- ・ **追加料金とコンサルティングサービス料金**
- ・ **人材育成の費用と投資者達の年費**
- ・ **プラットフォームの取引手数料**

すべての料金の支払いは BCV で支払うことが推薦である：

- ・ **サービス料、取引手数料を支払う時、BCV で支払うと 50%値引きする**
- ・ **プロジェクトの詳しい評価レポートを購入する時、BCV で支払うと**

50%値引きする

- ・ 研究報告を褒美したり、チップをやったりする時、BCV で支払うと

50%値引きする

- ・ ポイントツーポイントサービスを購入する時、BCV で支払うと 50%値引きする

BitCV は BCV の株主の間に収益の分配をしなく、代わりに収益は 20%以上の部分を証券取引所で BCV を再購入し、BCV の株価が長期的に安定した上がることを確保する。最後に BCV の株主の収益を実現させる。

第八章、プロジェクトのマイルストーン及びロードマップ

2017 年 9 月 :	プロジェクト初期の企画を始める
2017 年 11 月 :	プロジェクトの原型、商品のデザインと企画を完成する
2017 年 11 月 :	チームを初めて作る
2017 年 12 月 :	プロジェクトの白書の第一版を作成し、公式にプロジェクトの開発を始める
2018 年 1 月 15 日 :	第一版の商品原型 Demo を完成する。白書 V1.1 版の作成
2018 年 1 月中旬 :	エンジェル投資家が始める
2018 年 1 月末 :	BCV の発行と両替、チェーンヘッドラインを応用しはじめる
2018 年 2 月初め :	SaaS を運営しはじめる。BCV は証券取引所に上場する
2018 年 2 月下旬 :	SaaS を試運転する
2018 年 3 月初め :	チェーンサービスを運営しはじめる
2018 年 4 月末 :	チェーンイヴァリュエーションを運営しはじめる
2018 年 8 月 :	デジタル資産を運営しはじめる
2019 年 3 月 :	デジタル資産の環境を整える

第九章、法務関係とリスク開示書

9.1、BitCV デジタル資産の法体系

BitCVプロジェクトは海外で一つのBVI会社を成立する。つまり、BitCV Foundation、BitCV基金。その基金は独立法人として、チームを作ってBitCV デジタル資産というプロジェクトを開発したり、宣伝したり、運営したりする。またはすべての責任を担う。

BitCVデジタル資産基金は厳しくBVI所在地の法律に従い、適度な方法によって特定のお客様に資金を募集し、トークンBCVを渡す。いくつかの国の中には国民や団体に法律上の制限があるので、これらの地域にクラウドファンディングやファンドレジングをしないことにする。トークンBCVは証券ではなく、投機的な投資道具ではなく、実用的な仮想アイテムやトークンとして使われる。

トークンBCVの売買から得た収益BitCVデジタル資産基金によって、技術開発、マーケティング、コミュニティの建設、財務審査、ビジネス協力など日常運営に使われる。

BitCVデジタル資産は全世界において違う国々の審査機関に質問される可能性はある。所在地の法律に従うため、BitCVデジタル資産のサービスを提供できなくなる危険性もある。

9.2、リスク開示

- ・ 政策にてのリスク

今の段階では、中国のデジタル資産とスワップ取引への管理制度はまだ明確ではないため、政策による参加者の利益に損なう可能性がある。マーケティングの中、デジタルアセットマーケティング整体的な価格を過大に評価するとともに、投資のリスクが高まり、参加者のスワップ取引への期待も過剰になる。だが、これらの過剰な期待は実現できなくなる可能性がある。

- ・ **規制リスク**

BCVを含めるデジタル資産についての取引は非常に変わりやすい。デジタル資産領域には厳密な規則が足りないので、デジタルトークンが高騰するか暴落するか、またはバンカーによる価格操作など危険性もある。経験が足りないため、個人参加者はこれらの株を入手すると、不安定なマーケティングからの資産衝撃や圧力に弱い。専門家、マスコミなどは参加者に慎重な姿勢を守ろうと呼び掛けているが、厳密な規則や条約がまだ形成されない。なので、このようなリスクには逃げられない。無論、将来なら、ブロックチェーンやデジタルトークンへの規則が必ず登場する。もし規制機関がこの領域に踏みこむと、スワップ取引時に購入したトークンに影響を及ぼすかもしれない。価格と市場性の変化なども含まれている。

- ・ **チームリスク**

今ブロックチェーンの領域にはチームやプロジェクトがたくさんある。競争が大変激しい。マーケティング競争やプロジェクトの運営圧力も大きい。これらの優秀なプロジェクトの中にBitCVプロジェクトは突破できるかできないか、または参加者に認められるか否か。これはBitCVチームの

能力やビジョンプランニングにかかわるだけではなく、市場における各競争者からの影響にも関わり、悪性の競争に落ちる可能性もある。BCVは創業者たちの長年の人脈に基づき、一つの活力も実力も備えるチームを作り、金融メディアとブロックチェーンの専門家や豊富な経験を持つ技術開発者を集める。BCVの整体発展にとってチーム内部の安定性と凝集度は非常に大切である。

今後、核心メンバーの離脱やチーム内での矛盾によるBCVの整体評価に悪い影響を与えるリスクがある。

・ 包括的な管理リスク

BCVチームはベストを尽くし、白書の発展目標を実現させ、プロジェクトの成長空間を拡大する。今のBCVチームはもう成熟な商業や背景資源を積んだが、業界整体発展の未来は予想できないので、今のマーケティングモードと包括的な管理思想がニーズに合わなく、収益が上がらない可能性もある。それに、この白書はプロジェクトの細部の更新とともに調整する。もし参加者はプロジェクトの更新した情報を了解しないと、または公衆はプロジェクトの最新情報を知らない、参加者または公衆は新しい情報が足りないため、このプロジェクトの発展に影響する。。

・ 技術リスク

まず、このプロジェクトはブロックチェーンやパソコン研究開発技術に基づくため、技術の早い発展もこのプロジェクトに潜在的リスクをもたらす。また、ブロックチェーン、分散型台帳技術、非集中化、改ざん防止などのような技術がこのプロジェクトの核心なので、BCVチームはこれらの

技術をすべて時代に遅れないようにすることが確保できない。そして、プロジェクト更新調整の時、セキュリティー上の脆弱性が見つけたら、修正パッチの形で見直すことができるが、セキュリティー上の脆弱性による影響の大きさを確保できない。

・ 安全リスク

安全性の面においては、一人の株主の持つ株が少ないが、合計人数が多いため、安全保障の必要性が非常に高い。トークンが匿名で追跡しにくい
ため、犯罪者に利用されたり、ハッカーに侵入されたり、違法資産移動に関わったりする危険性がある。ブロックチェーン技術と業界全体の発展とともに、BCVチームは予想外のリスクに直面する可能性もある。このプロジェクトに参加する前に、参加者の皆さま、どうぞ私たちのチームの背景やプロジェクト全体のデザインと考えを了解し、合理的に自分の期待を調整し、理性的にトークンスワップ取引に参加してください。

9.3、免責事項に関する声明

本稿は情報を伝達することのみに使うべきである。文章内容をご参考まで。BCV及び関連の会社で株券や証券を売ののに対する投資アドバイス教唆、招待ではない。こういった招待は機密備忘録を通じて進めなければならない。なお、証券法と関連する法律にも適わないといけない。本稿の内容が交換に加わるのを強制すると解釈してはいけない。本白書に関するすべての行為が交換に加わると見なされない。白書のコピーを取ったり、他人に本白書シェアしたりするという行為も含まれてう。交換に加わるには参加者は一定の年齢に達していお

り、完全な民事行為能力を有し、BCVとの契約は真実で有効でなければならない。すべての参加者は自分の意志で契約書を交わし、その前にBCVに対するはっきりの理解が必要である。

BCVチームは合理的な試みを進め、本白書の情報の正確さを確保する。開発の過程で、プラットフォームは更新するかもしれない。プラットフォームのメカニズム・通行許可証及びそのメカニズム・通行許可証の配属状況は含まれているが、それらのみには限らない。プロジェクトの進展に伴い、本稿の一部の内容は新版の白書で調整するかもしれない。チームはウェブサイトで公告を発表し、或いは新版白書の形で、更新内容を公布する。参加者の皆様はすぐに最新版の白書を手に入れ、更新内容に基づいて自分の戦略を調整してください。

BCVは明確に以下の行為一

- 1．本稿の内容への依頼；
- 2．本稿の間違った情報；
- 3．本文が引き起こしたすべての行為による損失の責任を取らないことにする。

チームは全力を尽くして本稿に言及した目標を実現したいと思うが、不可抗力があるため、チームは完全に完成すると承諾できない。

BCVはプラットフォームが効果を発揮する大切なツールで、投資品ではない。BCVを有するのが持ち主にBCVプラットフォームの所有権、コントロール権、戦略の決定権を与えることの象徴ではない。数字暗号化通行許可証としてのBCVは以下どの類別にも属されていない。

- (a)すべての種類の通貨；

(b)証券；

(c)法律実体の株式所有権；

(d)株券、債権、手形、ワラント、証書あるいはその他の権力を与える文書。

BCVの価値が上昇するや否やは市場規則及び実施した需要次第である。何の価値もない可能性もある。チームはその価値上昇に承諾しない。また、その価値の増減による結果に責任を取らない。本チームは法律許可の最大範囲で、交換に加わることによる損害やリスクの責任は取らない。直接・間接の個人損害やビジネス利益の損失、ビジネス情報の紛失、他の経済損失は含まれているが、それらのみには限らない。BCVプラットフォームは交換業の健康的な発展により管理条例及び自律開示書などを守る。参加者参加することイコールこういった検査を完全に受け入れる。それと同時に、こういった検査を完成するための参加者が提供する情報は完全で正確でなければならない。BCVプラットフォームは明確に参加者に可能なリスクを伝達した。参加者は一旦交換に加わるのは、細則の各条項説明を理解して同意し、本プラットフォームの潜在的なリスクを受け入れ、その結果を自分で負うことを認める。